

令和6年5月1日 現在

令和6年度 教員の学位・業績等

文学部 国際英語学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
菱田 信彦	国際英語	教授	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得退学	修士(文学)	イギリス小説	英米児童文学、文学批評理論	国際コミュニケーション(イギリス研修)	英語文学演習	論文「アクション・リサーチを活用した高等学校における英語プレゼンテーションの学習」(単著)(査読有),『川村学園女子大学研究紀要』28(1), 15-31, 2017.	論文「従順なエルフと抵抗するゴブリン:『ハリー・ポッター』シリーズの魔法種族における価値の逆転」(単著)(査読有),『東京女子大学比較文化研究所紀要』78, 59-76, 2017.	著書『快読「ハリー・ポッター」:ハーマイオニーとロン結婚をめぐるローリングの“後悔”とは?』(単著),小鳥遊書房,2022.	論文「『グリーン・ノウ物語』シリーズにおける語り、音、時間」(単著)(査読無),田中美保子・安藤 聡編著,『ルーシー・ボストン:館の魔法に魅せられた芸術家』,国書刊行会,131-167,2022.
倉林 直子	国際英語	教授	津田塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学	修士(文学)、MA (History, University of Virginia)	アメリカ史	日米関係史	アメリカ文化史	国際文化特講II	「冷戦期におけるアメリカ文化外交—1958年ニューヨーク・シティ・バレエ団の日本公演を一例に」『アメリカ研究』57号、2023年3月	「1960年代日本舞台芸術とアメリカ—文楽、狂言、能—」『津田塾大学紀要』55号、2023年3月	「1950年代日本舞台芸術とアメリカ—1959年アメリカ雅楽公演を中心に—」『アメリカ太平洋研究』20号、2020年3月	「日米文化交流をめぐる協調と摩擦 1960年歌舞伎のアメリカ公演を一例として」『アメリカ史研究』第40号、2017年8月
W・キスチャック	国際英語	教授	法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻	修士(文学)	シーラ・ワトソン研究	能楽研究	卒業研究(パフォーマンス)	EIA. II (English in Action)	シーラ・ワトソン Rough Answerの試訳及びワトソンの年譜,川村英文学第8号,2003年3月	シーラ・ワトソン Brother Oedipus—a story—の試訳,川村英文学第9号,2004年3月	シーラ・ワトソン研究 The Black Farm—A Modern Allegory—の試訳,川村学園女子大学研究紀要第16巻第1号,2005年3月	シーラ・ワトソン研究—短編 Antigoneの試訳—,川村学園女子大学研究紀要第17巻第1号,2006年3月
佐藤 翔馬	国際英語	講師	名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程修了	博士(学術)	言語学	英語教育	言語コミュニケーション特講II	児童英語教育法・児童英語教材研究	「理由を提示するit is that節構文」『英語語法文法研究』第22号、2015年12月	「文主語構文とit外置文」『英語語法文法研究』第26号、2019年12月	「It says PP構文におけるitの働きと語順について」『英語語法文法研究』第27号、2020年12月	「2種類のit is (just) that節構文」JELS 32, 2015年1月
山本 麻里耶	国際英語	講師	白百合女子大学大学院文学研究科児童文学専攻博士課程単位取得退学	修士(文芸学)	英語圏児童文学(ファンタジー)	イギリス文学、アメリカ文学	国際文化特講I	イギリス・アメリカ文化研究I(2)	「ケネス・グレアムの『ものぐさドラゴン』におけるキャラクターのイメージ反転」『白百合女子大学児童文化研究センター論文』XIII, 2010年3月	「E・ネズビットの「国中がドラゴン」に見る疫病としてのドラゴンの表象について」『日月』第19号、2022年11月	「ベジタリアンになったドラゴン—ローズマリー・マニングのR・Dの場合」pp.106-128、『子ども(の本)と食—物語の新しい食べ方』(共著)、玉川大学出版部、2007年1月	第一部:Introduction(pp.85-89)、ゲド戦記シリーズ1-3巻あらすじ(pp.92-96)、ゲド戦記シリーズにおける魔法(pp.118-133)、キャラクター紹介(ゲド、テルー、オジオン、トンボ、ドラゴンたち)(pp.182-195)、『ゲド戦記の世界「ゲド戦記」はじめて読本』(共著)、近代映画社、2006年8月
マクシム・シャハリ	国際英語	助教	オックスフォード大学、マートン・カレッジ、東洋研究所	文学博士(D.Phil.)	東洋研究	国際政治学	日本の政治と国際社会(1)(2)	海外から見た日本(1)(2)	第2回ヨーロッパ日本研究ラウンドテーブル「北東アジア安全保障再考」(イギリス、シェフィールド大学)に参加(平成20年3月)	イギリス日本研究協会年次大会(イギリス、マンチェスター)にて口頭発表(平成20年4月)	日本政治学コロキウム年次大会(イギリス、リーズ大学)にて口頭発表(平成20年9月)	ワークショップ「なぜ(いまだに)日本は重要なのか」(イギリス外務・コモンウェルス省およびシェフィールド大学)において、日本とロシアの関係について報告(平成21年4月)

令和6年度 教員の学位・業績等

文学部 史学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
高津 純也	史学	教授	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士後期課程修了	博士(文学)	中国古代史	中国思想史, 中国古文字学	アジア史研究入門(1)	東アジア史	『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしへの中国—』共著, 東方書店, 2014年	『『尚書』諸篇の成立に関する一考察—戦国諸国における同時並行的な成書について—』, 単著, 『史学雑誌』第116編11号, 2007年	『荀子』『禮記』引書再考—楚簡本「緇衣」の出現を踏まえ—, 単著, 『中國出土資料研究』第16号, 2012年	『マイクロリーディングという試み—地理歴史科教育法に与える影響について—』, 単著, 『川村学園女子大学教職センター年報』第1号, 2018年
藤原 昌樹	史学	教授	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程 満期退学	修士(スポーツ健康科学)	スポーツ社会学	武道論	オリンピック論	ボランティア論	『スポーツボランティア養成事業の指針について』, 共著, 日本スポーツ産業学会第25回学会大会, 2016.	『小学校教員養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究』, 共著, 株式会社ワードオン, 2011.	『生涯スポーツと支援者』, 日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報』第25号, 単著, 日本生涯教育学会, 2004.	『保健指導のすすめ方』(養護教諭のための実践教育保健学講座第11巻), 単著, 出版科学総合研究所, 1985.
大西 克典	史学	教授	ピサ高等師範学校博士課程修了	博士(歴史学)	近世イタリア史		西洋史演習(2)	西洋史概説(1)	(単著) <i>Il progetto di catasto generale nella Toscana del Settecento: una polemica sulla riforma leopoldina</i> , Roma; Edizioni di Storia e Letteratura, 2022.	『18世紀トスカーナ大公国における統一土地台帳編纂計画とその挫折: ピエトロ・レオポルド期の改革路線対立』『西洋史学』258号(2015年)	『近世イタリア都市工業と啓蒙改革—18世紀トスカーナにおける絹織物工業保護』『史学雑誌』126編8号(2017年8月)	『18世紀トスカーナ大公国における統一土地台帳編纂計画とその挫折: ピエトロ・レオポルド期の改革路線対立』『西洋史学』258号(2015年)
辻 明日香	史学	教授	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修了	博士(文学)	西アジア史		アジア史概論(2)	アジア史研究入門(2)	(共著) “Wearing the Blue Turban Again: Christian Reconversions in Mamluk Egypt,” in Katsumi Fukasawa et al. (eds.), <i>Conflict and Reconciliation among Confessions and Religions</i> , London: Routledge, 2017.	(共著) “Preliminary Report on Four saints from the Mamluk period: Hadid, Yuhanna al-Rabban, Barsauma al-Uryan, and ‘Alam,” in Paola Buzi et al. (eds.), <i>Coptic Society, Literature and Religion from Late Antiquity to Modern Times: Proceedings of the Tenth International Congress of Coptic Studies</i> , Rome, September 17th–22nd, Louvain: Peeters, 2016.	『コプト聖人伝にみられる十四世紀エジプト社会』山川歴史モノグラフ, 山川出版社, 2016年。	『11世紀後半—14世紀下エジプトにおけるキリスト教徒集落の消長』『日本中東学会年報』第31–2号(2016年3月)。
原田 晶子	史学	教授	エアランゲン大学博士課程修了	Dr. Phil.	西洋中世史	地域文化研究(ドイツ)	西洋史演習(1)	西洋史研究入門(1)	(単著) <i>Die Symbiose von Kirche und Stadt im Spätmittelalter. Das bürgerliche Gemeinschaftsbewusstsein und Stiftungen an die Pfarrkirchen in der Reichsstadt Nürnberg (Studien zur Geschichtsforschung des Mittelalters Bd. 31)</i> , Hamburg: Verlag Dr. Kovač, 2014.	『断絶と新生: 中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』共著, 慶応義塾大学出版会, 2016年	『西洋中世都市の市壁と都市のアイデンティティ』『歴史学研究』972号(2018年)	『中世末期ドイツ都市における聖母マリア賛歌「サルヴェ・レジーナ」寄進の社会的意義—帝国都市ニュルンベルクを例に—』『比較都市史研究』第31巻第2号(2012年)。□
堀部 猛	史学	教授	筑波大学大学院教育研究科修士課程修了	修士(教育学)	日本古代史	博物館学	日本史演習(1)	博物館資料論	『綾司・綾所考—皇后宮職の手工業生産機構—』『国立歴史民俗博物館』第244集, 2024年	『トネリの勸籍』『史学雑誌』第130編第7号, 2021年	『訳注日本史料 延喜式 下』共著, 集英社, 2017年	『日本古代の勸籍制』『正倉院文書研究』14号, 2015年
志村 瑠璃	史学	講師	東京大学大学院教育学研究科博士課程(単位取得満期退学)	修士(教育学)	図書館情報学		図書館概論	図書館情報資源概論	『書店が読者に媒介しうる本: 名著文庫を対象として』『日本図書館情報学会誌』vol. 67, no. 1, 2021, p. 1–15.	『読書法の書籍における読書観の類型とその経年変化』『日本図書館情報学会誌』vol. 65, no. 4, 2019, p. 162–180.	Ruri Shimura, Shohei Yamada, Bin Umino, Shin'ichi Toda, Kyo Kageura “The Structural Characteristics of the Japanese Paperback Book Series Shinsho,” <i>Libres</i> , vol. 27, no. 1, 2017, p. 39–52.	志村瑠璃, 朱心茹『『日本図書館情報学会誌』における著者の出現分布』『生涯学習基盤経営研究』vol. 45, 2021, p. 27–42.
長崎 健吾	史学	講師	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程	博士(文学)	日本中世史		日本史研究入門(1)	日本中世史	『戦国期京都の都市民と権力』『歴史学研究』1028号, 2022年	『室町戦国期京都における法華宗諸門流の動向』『古文書研究』89号, 2020年	『戦国期京都における都市民の社会的結合と「家」』『史学雑誌』128編9号, 2019年	『戦国期京都の酒屋・土倉と法華宗』『日本仏教総合研究』17号, 2019年

令和6年度 教員の学位・業績等

文学部 心理学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
鶴沼 秀行	心理	教授	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程(単位取得退学)	博士(教育学)	知覚心理学	認知心理学	心理学統計法	心理学実験(基礎)	【著書】対象の認識における情報の時間空間的統合と知覚的表象の形成, 単著, 早稲田大学出版会, 2013	【著書】改訂版はじめての心理統計法, 共著, 東京図書, 2016	【学術論文】Spatiotemporal integration and contour interpolation revealed by a dot localization task with serial presentation paradigm, 共著, Wiley Blackwell 日本心理学会, Japanese Psychological Research, 2010	【学術論文】Facial features in perceived intensity of schematic facial expressions, 共著, Ammons Scientific, Perceptual and Motor Skills, 2010
田中 裕	心理	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	生理心理学		生理心理学(文学部心理学科専門科目)	生理心理学特講(大学院心理学専攻専門科目)	Yu TANAKA, Takenobu OHISHI, Etsuko HAYASHI, Rumiko KATO, Hideoki TADA (2013) 【共著】Eyeblink as a formative assessment technique for people with profound multiple disabilities Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities Vol. 10, pp. 174.	田中裕(2009b)学習と条件づけと動機づけ【共著】『社会福祉学習双書』編集委員会(編) 社会福祉学習双書2009 第11巻 心理学 第1章 第5節 全国社会福祉協議会出版部 pp.25-29.	田中裕(1999)【単著】覚醒水準と瞬目活動 心理学研究 Vol.70 pp.1-8.	田中裕(2002a)【単著】視覚作業休息下における随意性瞬目の効果 川村学園女子大学研究紀要,第13巻 第1号 pp.159-168.
桂 瑠以	心理	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	博士(人文科学)	社会心理学	教育心理学	社会心理学概論	コミュニケーション論	【著書】挫折と向き合う心理学, 共著, 福村出版, 2020	【著書】新しい教育相談論, 共著, 武蔵野美術大学出版, 2016	【学術論文】インターネットの利用による心理的引きこもりの低減効果の検討—青年期から老年期の世代間比較—, 共著, 日本教育工学会論文誌, 2020	【学術論文】The effect of mobile phone use on communication between parents and children: A panel study examining causality, 共著, Ochanomizu University Global COE Program English Monograph, Proceedings, 2012
佐藤 哲康	心理	教授	立正大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程(単位取得退学)	修士(文学)	臨床心理学	カウンセリング心理学	青年心理学(学部)	心理療法各論Ⅰ(認知行動療法)(大学院)	【著書】不登校の予防と対応, 分担, 図書文化社, 2020	【著書】教育相談の理論と方法, 分担, 北樹出版, 2019	【論文】待つ相談室から働きかける機能を包括した学生相談室への展開, 学生相談研究 29(2), 153-165, 2008	【論文】自ら助けを求めず潜在している学生に対する学内協働による取り組み—欠席過多学生対応プロジェクトを通して—, 学生相談研究 28(3), 214-224, 2008
簗下成子	心理	教授	筑波大学大学院博士課程医学研究科卒業	博士(医学)	臨床心理学	犯罪心理学	非行・犯罪心理学(学部)	臨床心理面接法特講(大学院)	Koelkebecka, K, Vosselera, A, Kohla, W, Fasshauera, T, Lencera, R, Satoh, S, E. Kretc, M, Minoshita, S Masked ambiguity – Emotion identification in schizophrenia and major depressive disorder Psychiatry Research 270, 852-860, 2018.	簗下成子, 小島秀悟, 佐藤親次, 表情認知の精神病理学的研究, 脳の科学, Vol22. 2, pp.177-181, 2000.	簗下成子, 森田展彰, 佐藤親次, 浅井義弘, 統合失調症患者における表情認知と社会適応度の関係—能面テスト(Noh Mask Test)を用いて— 社会精神医学雑誌 12(3)253-261, 2004. (Minoshita S, Morita N, Satoh S, Asai Y. Relationships between facial expression recognition and social adjustment in schizophrenia. —The Noh mask Test as a social skill assessment— Japanese Bulletin of Social Psychiatry 12(3)253-261, 2004.)	Minoshita S, Morita N, Yamashita T, Yoshikawa M, Kikuchi T, Satoh S, Recognition of affect in facial expression using the Noh Mask Test: Comparison of individuals with schizophrenia and normal controls. Psychiatry and Clinical Neurosciences ,59, 1, 2005, pp.4-10.
松岡 靖子	心理	准教授	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程(単位取得退学)	博士(心理学)	発達心理学	学校臨床心理学	発達心理学(学部)	臨床心理基礎実習(大学院)	【著書】(分担)学校心理臨床実践, 窪田由紀・平石賢二(編), ナカニシヤ出版, 2018.	【論文】(共著)私学常勤型スクールカウンセラーの活動の実態と課題, 川村学園女子大学研究紀要, 第33巻, 33-51, 2022	【論文】(単著)スクールカウンセラーの教員との連携構築プロセス—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる検討—, カウンセリング研究, 第47巻2号, 61-75, 2014	【論文】(単著)自傷行為を呈した生徒への常勤型スクールカウンセラーの対応—即時性と連携体制—, カウンセリング研究, 第45巻1号, 51-61, 2012.
平間 さゆり	心理	講師	国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻博士課程(単位取得退学)	博士(臨床心理学)	臨床心理学	犯罪心理学	心理実習・臨床心理実習(大学院・学部)	心理的アセスメント(学部)	【論文】(共著)鳥獣戯画テストを用いた視点取得の測定の検討. 川村学園女子大学大学院研究年報, 第2号. 19-37, 2013	【論文】(共著)我が国の女子殺人受刑者に関する研究—家族機能・パーソナリティ・発達障害の傾向を他罪種と比較して—. 国際医療福祉大学学会誌. 21(2), 37-47. 2016	【論文】(共著)公認心理師養成課程の心理実習について—コロナ禍における心理実習の学びの報告—, 川村学園女子大学大学院研究年報, 第11号. 33-53, 2022.	【論文】(共著)心理実習における心理的支援感について—達成目標と向社会的な観点による検討—, 川村学園女子大学大学院研究年報, 第10号, 49-61, 2021

令和6年度 教員の学位・業績等

文学部 日本文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
眞田 尊光	日本文化	教授	高野山大学大学院文学研究科密教学専攻博士後期課程修了	高野山大学:博士(密教学)・修士(密教学)、早稲田大学:修士(文学)	仏教美術史	日本美術史	日本の絵画	日本の仏像	【著書】『鑑真と唐招提寺の研究』(単著)、吉川弘文館、2021.3	【著書】『正倉院宝物の輝き』(共著)、里文出版、2020、10	【著書】『みる・よむ・あるく 東京の歴史8 地帯編5 足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区』(共著)、吉川弘文館、2020、3	【著書】『西大寺—美術史研究のあゆみ—』(共著)、里文出版、2017、12
竹内 啓	幼児教育	教授	東京芸術大学大学院美術研究科 日本画専攻 修士課程 修了	芸術学修士(美術)	美術	日本画	保育内容の理解と方法(造形)	幼児造形指導法	【展覧会】「遺跡の空—竹内啓展」日本橋高島屋X画廊,東京,2012	【論文】「幼児と造形表現—プラ板を使った表現から—」川村学園女子大学教職センター年報第1号,pp335-346,(2018)	【論文】「幼児造形表現指導におけるフェイスペインティングの試み」川村学園女子大学研究紀要第29巻・第2号,pp83-101,(2018)	【展覧会】「スサノヲの到来—いのち、いかり、いのり」足利市立美術館ほか、2014~2015
山名 順子	日本文化	教授	お茶の水女子大学大学院博士後期課程人間文化研究科修了	博士(人文科学)	日本文学(近代/近世)	国語科教育	日本文化専門演習Ⅲ(日本近代文学)	国語科教育法Ⅲ、Ⅳ	「国語科における〈文部省唱歌〉および〈伝統的な年中行事〉の利用の研究 —中学校における実践研究を通じて—」、「子どもを取り巻く家庭・教育・環境をめぐる研究」、川村学園子ども学研究所、2016.01	「山東京伝の読本・合巻における挿絵の変遷—『梅花水裂』から『磯馴松金糸腰蓑』へ—(剛悪の趣意)を軸として—」、「読本研究新集」、読本研究の会、第8集、2016.07	「〈文学作品〉としての『少年の日の思い出』利用の研究—中学校における実践研究を通じて—」、「人文科教育研究」、人文科教育学会、第43号、2016.09	「中島敦『山月記』を読む—時代をみつめる作者の眼—(二)」、「川村学園女子大学研究紀要」第28巻、川村学園女子大学、2017.03
伊藤 純	日本文化	准教授	早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程 修了	博士(人間科学)	民俗学	文化人類学	日本の祭りと儀礼	日本の伝統芸能	「三宅島の芸能—その歴史と現在—」『民俗芸能』(101)、pp.23-35、2023年	「雑誌『民俗芸能』100号の軌跡」『民俗芸能』(100)、pp. 84-97、2022年	「法印神楽團の獅子舞」『山岳修験』(68)、pp.23-43、2021年	「ベッドタウンで「伝統」と向き合う—立川市諏訪神社の獅子舞のあゆみ—」『多摩のあゆみ』(180)、pp.14-23、2020年
咲本 英恵	日本文化	講師	名古屋大学大学院文学研究科人文学専攻日本文学講座博士(博士後期)課程単位取得満期退学	博士(文学)	日本文学(中古・中世)		日本文学史(古典)	古典文学概論	【著書】『源氏物語の仏教的変容 中世王朝物語『雲隠六帖』試論』三弥井書店、2023年	【著書】『学びを深めるヒントシリーズ枕草子』(共著)、明治書院、2020年	【著書】『地の遺産シリーズ5 宇治十帖の新世界』(共著)武蔵野書院、2018年	【著書】『学びを深めるヒントシリーズ伊勢物語』明治書院、2018年
張 明	日本文化	講師	学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了	博士(日本語日本文学)	日本語学	日本語教育学	日本語学(音声言語を含む)	日本語教授法(初級編)(中上級編)	「字音接尾辞「歴」について」『学習院大学大学院日本語日本文学』第19号,pp.79-67.2023年	「不定機能を持つ前接要素「某(ボウ)」」『日本語の研究』第16巻第1号,pp.51-67.2020年	「過去性を持つ和語接頭辞「元」について—後接名詞にかかるとはいえない場合を中心に—」『日本語／日本語教育研究』第10号,pp.21-36.2019年	「字音形態素「両」に関する一考察」『日本語文法』第19巻第2号,pp.117-125.2019年

令和6年度 教員の学位・業績等

教育学部 児童教育学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
小山 久美子	児童教育	教授	日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程後期単位取得満期退学	文学修士	言語学	英語教育	英語学特講	小学校英語指導法	『日本近代教育と川村学園』(共)ゆまに書房、2024年	『英文法における誤答』『川村学園女子大学教職センター年報』第6号、2022年	『英語における分裂文再考—小説における使用と機能—』『川村学園女子大学研究紀要』第29巻第1号、2018年	『英語学用語辞典』(共)三省堂、1998年
加藤 美由紀	児童教育	教授	日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専攻博士課程後期単位取得退学	博士(教育学)	理科教育学	環境教育	理科	理科教育法	【論文】(共著)「写真上の植物の被度を測定する教材の開発—身の回りの外来植物に着目して—」『環境教育』31(1), pp.45-54. 2024	【論文】(単著)「オーストラリアビクトリア州の科学カリキュラムの特質—『人間の努力としての科学』に注目して—」『川村学園女子大学研究紀要』第35巻, pp.123-134. 2024	【論文】(単著)「高等学校生物教科書に見られる自然保護から生物多様性保全への変遷」『生物教育』56(3), pp.94-110. 2015	【論文】(単著)「中学校学習指導要領に見る保全教育の変遷と課題」『環境教育』25(1), pp.119-131. 2015
山口 祐子	児童教育	教授	放送大学大学院文化科学研究科	修士	小学校教育全般	教育実践研究	学校経営論	教育実習演習	『日本近代教育と川村学園』(共)ゆまに書房、2024年	『川村学園女子大学教職センター年報』2号	『川村学園女子大学教職センター年報』5号	
横山 悦子	児童教育	教授	福島県立会津短期大学デザイン科	准学士	国語教育	図工・美術	国語	国語科教育法	【著書】『はしだてえつこの児童詩の世界』全13冊、銀の鈴社、1992-2001 【著書】『命のカルタ』、銀の鈴社、2006 『めるへん文庫』全19冊、共著、我孫子市教育委員会、2004-2023	【著書】鈴の音童話『魔女シリーズ』全18巻、銀の鈴社、1998-2017 【著書】エッセイ『魔女が校長先生になった』銀の鈴社、2020 【著書】学校経営『学校経営は想像の泉』銀の鈴社、2023 『わくわく童話 ひとりじゃないって』共著、文研出版、1996	【著書】すずのねえほん『魔女えほん』全15巻、銀の鈴社、2002-2008 【著書】心の絵本『ほくほココロ』全5巻、銀の鈴社、2004 【著書】ももの知り絵本『ピベッタの幸せ探し12支めぐり』銀の鈴社、1995 【著書】『ポケット絵本シリーズ』全7巻、銀の鈴社、2005-2019	「主体的・対話的深い学びは楽しむことから」小学館、総合教育技術5月号、2019 「準備と引き継ぎのポイント・校長編」小学館、総合教育技術3月号、2021 「主体的な学びを育む総合の力」小学館、教育技術4/5月号、2021
田中 聡	児童教育	教授	中央大学理工学部	理学士	算数・数学教育	学校経営	算数	算数科教育法	小学校算数科指導の工夫(我孫子市立我孫子第四小学校における実践) 『川村学園女子大学教職センター年報』創刊号	「我孫子市新任校長研修会」に関する実践報告(学校グランドデザインと信頼される学校づくり) 『川村学園女子大学教職センター年報』第2号	「みんなでつくる地域の学校」千葉県総合教育センター『千葉教育』4・5月号NO625	「ふるさと我孫子の先人たち」我孫子市教育委員会教育総務部指導課
向野 光	児童教育	教授	千葉大学教育学部	教育学士	特別支援教育	キャリア教育	特別支援教育	進路指導・キャリア教育	『日本近代教育と川村学園』(共)ゆまに書房、2024年	特別支援学校における職業教育についての一考察(千葉県における作業学習の編成を通して) 『川村学園女子大学研究紀要』第29巻第2号	高等特別支援学校における生徒指導に就いての一考察 川村学園女子大学子ども学研究年報 第2巻第1号	知的障害をもつ人々の生涯学習をの今後について—公民館で行う知的障害者のための演劇活動を通して—『川村学園女子大学研究紀要』第35巻
奥田 順也	児童教育	准教授	国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程音楽専攻(イタリア歌曲)	修士(音楽)	声楽	音楽教育学	音楽科教育法	音楽	「小学校低学年における『声量』を重視した地声による歌唱に関する音声分析的アプローチ—歌唱の際のピッチに着目して—」(2016) 『教育実践学研究』第19号(教育実践学会), pp.77-95.	「小学校低学年から小学校中学年を見据えた段階的な歌唱指導に関する検証—子供たちの歌う意欲と歌唱技能を観点として—」(2016)『玉川大学 教師教育リサーチセンター年報』第6号, pp.33-45.	「小学校低学年における鍵盤ハーモニカの運指を指導するための学習プロセスの構築とその有用性に関する研究—授業実践から得られたデータを用いて—」(2018)『教育実践学研究』第21号(教育実践学会), pp.51-75.	「小学校低学年の歌唱指導における『どなり声』の解消法に関する考察—実践事例に見られる傾向について—」(2015)『玉川大学芸術学部紀要』芸術研究6, pp.11-20.
松本 祐介	児童教育	准教授	筑波大学大学院博士後期課程体育科学専攻単位取得退学	修士(教育学)	体育科教育学	スポーツ教育学	体育科教育法	健康スポーツ論	小学校低学年の体育授業における捕球技能の習得—捕球動作の選択の学習とその効果—。(2013)スポーツ教育学研究,33(2):1-13.	小学校低学年における捕球技能向上のための学習プログラムの開発—動作の選択と体幹の移動に着目して—。(2010)日本スポーツ教育学会第30回記念大会プロシーディングス,pp.132-138.	小学校低学年における捕球動作の学習必要性—学習の有無による捕球動作の相違から—。(2015)川村学園女子大学研究紀要,26(2):63-80	小学校低学年における捕球動作の学習必要性—学習の有無による捕球動作の相違から—。(2015)川村学園女子大学研究紀要,26(2):63-80
山口 恭平	児童教育	准教授	東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学	修士(教育学)	教育学	教育思想	教育原理	道徳の理論と指導法	「J・バトラーにおける『政治教育』」東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第42号、2016年、pp.205-214.	「カリキュラムとunlearn」川村学園女子大学教職センター『川村学園女子大学教職センター年報』第5号、2021年、pp.63-75.	「『道徳教育論』の指導法にかんする覚え書き—『今日の道徳教育における問題の検討』を中心に—」桜美林大学『教職研究』第2号、2017年、pp.61-69.	「幼児教育におけるカリキュラムと『主体性』」川村学園女子大学教職センター『川村学園女子大学教職センター年報』第5号、2021、pp.77-84.

令和6年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 生活文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
永嶋 久美子	生活文化	教授	昭和女子大学大学院生活機構研究科博士後期課程生活機構学専攻修了	博士(学術)	調理科学	食教育	調理学	給食管理実習	【著書】『一食献立による調理実習25 第2版』共著, 医歯薬出版, 2016年	【論文】「給食を通じた食文化の継承に関する研究 献立および食の作法の伝承からの検討」(共著), 『食生活科学・文化・環境に関する研究助成研究紀要』, 第33巻(2018年度), pp.109-119, 公益財団法人アサヒグループ学術振興財団, 2020年	【論文】「凍みもちの内部組織構造と食味特性を形成する凍結・乾燥条件の検討」(共著), 『日本家政学会誌』, 第66巻, 第4号, pp.1-11, 日本家政学会, 2015年	【論文】「大学生の偏食行動様式別食習慣および健康習慣の実態」共著, 日本公衆衛生雑誌, 第49巻, 第5号, pp.447-455, 2002年
香山 綾子	生活文化	教授	東京大学大学院医学系研究科分子細胞生物学専攻	博士(医学)	生命科学	分子生物学	生化学	解剖生理学	VRAT: A Proposal of Training Method for Auditory Information Processing Using Virtual Space. J Med Virtual Real. 17(1) p23-32 (2020)	Loss of GPRC5B impairs synapse formation of Purkinje cells with cerebellar nuclear neurons and disrupts cerebellar synaptic plasticity and motor learning. Neurosci Res. 136 p33-47 (2018)	Mice lacking a functional NMDA receptor exhibit social subordination in a group-housed environment. FEBS J. 285(1) p188-196 (2018)	Loss of BOSS causes Shortened lifespan with Mitochondrial Dysfunction in Drosophila. PLoS One. 12(1): e0169073 (2017)
齋藤 美重子	生活文化	教授	日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修了	修士(家政学)	家庭科教育学	生活経営学	社会生活入門	家庭科教育法	【論文】単著「消費者市民社会に向けたアサーション・ディベート授業」(査読有)『消費者教育』第39冊, 日本消費者教育学会, 2019	【著書】編著『自然と社会と心の人間学』, 一藝社, 2020	【論文】Mieko SAITO, Midori OTAKE,他5名, Studies of Home Economics around the World and MDGs, (査読有), The Journal of Asian Regional Association for Home Economics(ARAHE), Volume 25・Number 4・2018	【論文】単著「農業体験学習の目標と学習連携―「食」「農」「環境」をつなぎ, 生活に活かす学びに向けて―」(査読有)『日本教科教育学会誌』, 第40巻2号, 日本教科教育学会, 2017
佐久間 美穂	生活文化	教授	日本女子大学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻	修士(社会福祉学)	社会福祉	福祉コミュニティ	社会福祉	保育実習Ⅱ(施設)	『中心と周縁-タイ・天草・シカゴ』, 共著, 春風社, 2013	『新 世界の社会福祉 第12巻 国際社会福祉』, 分担, 旬報社, 2020	『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉』第2版, 分担, みらい, 2024	「創造的社会的構築とコミュニティ-郊外型コミュニティの現状と課題に関する考察を通じて」(単著)『東北都市学会研究年報』Vol.15-16, 東北都市学会, 2016
佐藤 真弓	生活文化	教授	お茶の水女子大学大学院家政学研究科家庭経営学専攻	修士(家政学)	家政学原論	家庭経営学	家族関係学	家庭経営学	『生活と家族—家政学からの学び』(単著)—一藝社, 2016	『自然と社会と心の人間学』(共著)—一藝社, 2020	Examining the relationship between carers' attitudes towards life and their care behaviour based on the results of a questionnaire survey in Japan (共著) 教育文化研究 Vol.15.1-17.2024	THE USAGE OF CELL PHONES AND THE FEELING TO THEM IN MODERN JAPANESE COLLEGE STUDENTS (共著)2010, JOURNAL OF HUMAN ERGOLOGY Vol.39, No.1, pp.23-33
高橋 裕子	生活文化	教授	京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻修士課程	修士(芸術)	生活造形	被服構成学	商品開発演習	江戸のエコ学	「川村女学院における裁縫教育の変遷—コロナ禍で見た現代への有用性—」(共著), 川村学園女子大学 女性学研究所 教育研究奨励報告書, pp71-91,2021.	「中学・高校の家庭科教育における被服学の現状と課題」単著, 川村学園女子大学教職センター年報, 第1号,243-255頁	日本伝統手工芸 第16回 巧技ソサエティ美術展 <奏炎> 東京都議会議長賞受賞	「Intersection」(単独)2022 KSBDA LA International Invitationai Exhibition Certificate (KSBDA 2022 韓国基礎造形学会ロサンゼルス国際展)、Loyola Marymount Univ.1 LMU dr.LosAngeles.U.S.A、
叶内 茜	生活文化	准教授	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科学校教育学専攻修了	博士(教育学)	家庭科教育学	保育学	保育学	家庭の健康学	【著書】『家庭科教育(教科教育学シリーズ第7巻)』(共著),一藝社,2015.	【著書】『技術・家庭学習指導書「家庭分野」内容A家族・家庭生活』(共著),開隆堂,2021.	【論文】「体験内容の違いからみたふれ合い体験での学び—ナラティブの場面分析から—」(単著),児童学研究,43.44-53,2019.	【論文】「若手教員が抱える世代間交流の課題—乳幼児と中学生のふれ合い体験の実践に着目して—」(単著),日本世代間交流学会誌,10.39-47,2021.
庄司 武史	生活文化	准教授	早稲田大学大学院社会科学研究所地球社会論専攻博士後期課程修了	博士(学術)	歴史社会学	社会思想史	社会学	現代の社会	(単著)『清水幾太郎—経験, この人間的なるもの』ミネルヴァ書房, 2020.	(単著)『清水幾太郎 異彩の学匠の思想と実践』ミネルヴァ書房, 2015.	(論文)「財団法人二十世紀研究所の事業と思想—終戦直後における知識人活動の一事例」『社会思想史研究』第47号, 2023.	“The 20th Century Research Institute’s Lecture Records of “Talks on Sociology” and “Fundamental Problems in Sociology” that Influenced Ikutaro Shimizu’s Lectures on Sociology.” 『人文学報』第519-1号, pp.51-67, 2023.
築館 香澄	生活文化	准教授	大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻修了	博士(生活科学)	食生活学	食品学	食品学	食品加工学	【論文】「γ-アミノ酪酸(GABA)の摂取が繰り返すストレス下のラットの肝臓および脳のGABA代謝に及ぼす影響」日本家政学会誌, 63(6), 293-299(2012)	【著書】「茶の事典」(共著) 朝倉書店, 2017	【著書】「文部科学省検定済教科書 高等学校家庭科用 フードデザイン」(共著) 実教出版, 2023	【著書】「食べ物と健康 食品学総論 第3版」(共著) 光生館, 2024
朴 善美	生活文化	講師	日本女子大学大学院家政学研究科食物・栄養学専攻修了	修士(家政学)	臨床栄養学	栄養食事療法	臨床栄養学	栄養指導論	Japan diet intake changes serum phospholipid fatty acid compositions in middle-aged men: a pilot study, J Atheroscler Thromb. 26(1):3-13, 2018(共著)	食物アレルギー—児の保育所受け入れ状況等に関する実態調査, アレルギー. 70(4):293-301, 2021(共著)	症例を通して学ぶ 年代別食物アレルギーのすべて 改訂2版, 南山堂, 2018(共著)	そのまま使える! シーン別 食物アレルギーの栄養食事指導, 南山堂, 2020(共著)

松本 梓	生活文化	講師	女子栄養大学大学院 栄養学研究科 栄養学 専攻 博士後期課程 修了	博士(栄養 学)	基礎栄養学	脂質栄養学	基礎栄養学	応用調理学実習	Associations of Umbilical Cord Fatty Acid Profiles and Desaturase Enzyme Indices with Birth Weight for Gestational Age in Japanese Infants.Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids., 165, 102233 (2021)	「肥満における食事性長鎖飽和脂肪酸と視床 下部機能障害との関連の可能性」栄養学レ ビュー、女子栄養大学出版部、pp.60-82 (2020)	平成31年度メチル水銀曝露による健康影響 に関するレビュー、pp.26-29	
戸田 聡子	生活文化	助手	川村短期大学卒	準学士								
平中 菜摘	生活文化	助手	東京農業大学 応用生 物科学部 栄養科学科 管理栄養士専攻	学士(応用 生物化学)								
太田 ゆき江	生活文化	助手	東京家政学院大学 家政学部 家政学科 管理栄養士専攻	学士(家政 学)								

令和6年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 観光文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
西川 誠	観光文化	教授	東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退	文学修士	日本近代史	日本政治史	日本史概説(2)	日本史(1)	『日本政治史の新天地』(共著)(吉田書店, 2013年)	『史料を読み解く4 幕末維新の政治と社会』(共著)(山川出版社, 2009年)	『日本立憲政治の形成と変質』(共編著)(吉川弘文館, 2005年)	『山縣有朋関係文書』全3巻(共編)(山川出版社, 2004~2007年)
戸澤 純子	観光文化	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	認知心理学	実験美学	心理学	情報処理	ポテンシャル知覚心理学(共著)(サイエンス社) 2017年	認定心理士資格委員会(編) 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 (共著)(金子書房) 2015年	(単著) Height perception influenced by texture gradient, 2012, Perception, 41, 774-790	(単著) Role of a texture gradient for the perception of relative size, 2010, Perception, 39, 641-660
高山 啓子	生活文化	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻	修士(人文科学)	社会学	コミュニケーション論	社会学	観光社会学	『文化の社会学—実践と再生産のメカニズム—』(宮島喬編)(共著)有信堂1995年5月	『語る身体・見る身体』(西阪仰・山崎敬一編)(共著)ハーベスト社1997年12月	マイケル・リンチ『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』(水川喜文、中村和生、浦野茂、前田泰樹、高山啓子、岡田光弘、芦川晋 訳)(共訳)頭草書房2012年10月	『協同作業場面の身体配置—通信指令室における社会空間の構成—』(単著)『年報社会学論集』10号157-168頁、1997年6月
山下 琢巳	観光文化	教授	筑波大学大学院博士課程人文・社会科学研究科	博士(文学)	人文地理学	歴史地理学	観光地理学	日本地誌	『水害常襲地域の地域構造—天竜川下流域の近世・近代—』(単著)古今書院2015年	『生活文化の歴史地理学』(共著)古今書院2019年	「『牛浜出水の図』に描かれた江戸時代の浸水被害の復元と内水氾濫の特徴」(単著)『歴史地理学』66-1、2024年	「埼玉県飯能周辺における日帰り観光地の展開と特徴—旅行ガイドの記載を中心として—」(単著)『城西大学大学院研究年報』35、2022年
小山 知子	観光文化	准教授	法政大学大学院キャリアデザイン学研究科キャリアデザイン学専攻 修士課程修了	修士(キャリアデザイン学)	ホスピタリティデザイン	キャリアデザイン学	ホスピタリティ入門	キャリア・プランニングⅢ(1)	「Long Stays Overseas and Women's Lifelong Careers -A Study of Three Cases in Chiang Mai, Thailand-」(単著)『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』Vol.10, No.1(March 2024)	「Influence of participating in a career education class on the viewpoint of hospitality in university students」(単著)『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』Vol.9, No.1 (March 2023)	「大学生の多重役割に対する認識の変容プロセス—M-GTAIによる授業効果の分析—」(共著)『駿河台大学論叢』第63号 2022年	『ライフ・キャリアの視点を重視した授業が大学生のキャリア意識・行動に及ぼす影響—ワーク・キャリアの視点を重視した授業との比較検証—』(共著)『駿河台大学教育研究第3号』pp.48-62、2021年
櫻井 正	観光文化	准教授	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科ビジネスデザイン専攻 博士課程前期修了	修士(経営管理学)	観光学	キャリアデザイン学	観光マーケティング論	キャリア・プランニングⅣ(1)(2)	「リゾート型民泊ビジネス1」-ビジネス特性の仮説(用地選定から開業まで)- (単著)愛知学院大学紀要第52号 2023年3月	「日帰りバスツアービジネス1」-特徴的な観光資源と職業能力評価基準の可視化- (単著)帝京短期大学紀要第21号 2020年3月	「フラワーツーリズムによるまちづくりからの観光振興」(単著)帝京短期大学紀要第20号 2018年3月	「大学におけるゼミのイノベーション」(単著)一般社団法人サービス連合総研『SQUARE』2018秋号 2018年9月
江口 智子	観光文化	講師	早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了	修士(経済学)	金融論	フードツーリズム	観光経営学	キャリア・プランニングⅠ、Ⅲ(1)、Ⅳ(1)	「6次産業化による地域経済活性化の具体的方策に関する研究—ワインツーリズムやまなしの特性 観光客の定量的分析—」(単著)昭和女子大学現代ビジネス研究所報告書, p3-12, 2015年.	「小規模ワイナリーの経営戦略に関する研究:山梨県のワイナリーにおけるテイastingグループ・マネジメントの現状調査」(単著)日本フードサービス学会年報第23号, p114-117, 2018年.	「テイastingグループの従業員プロフィールと職場内訓練に関する調査—山梨県のワイナリーを事例として—」(単著)昭和女子大学現代ビジネス研究所紀要, 第4号, p5-16, 2019年.	
山田 祐子	観光文化	講師	事業構想大学院大学事業構想研究科事業構想専攻修士課程修了	事業構想修士(専門職)	宿泊産業経営論	ホスピタリティ産業論	観光事業論	ホテル・マネジメント論	旅館人材のためのリカレント教育プログラムの考察—湯田中渋温泉郷人材開発協議会の実務人材確保・育成事業を事例に—(単著)日本観光研究学会, 2021年	観光従事者のためのリカレント教育についての展望と動向(単著)高崎経済大学地域政策学会「地域政策研究」第24巻第1号	インターンシップにおけるクラウドサービスによるコミュニケーションへの検討—インターンシップのためのコミュニケーションアプリによる測定と観察—(単著)日本観光研究学会, 2017年	日本旅館におけるベトナム人材の育成と登用の検討—外国人材支援システムの構築を目指して—(単著)日本観光研究学会, 2016年